

5. 平成30年度 自己点検・自己評価報告

日高看護専門学校

当校では、平成26年の開校に際して、自己点検・自己評価委員会規程を作成し、第1期生から授業評価、実習評価を学生及び教員で行なう活動を続けてきました。

平成28年度に第1期生が卒業するにあたり、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会報告書」に示された看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針9カテゴリー43の下位項目・125評価項目に基づき自己点検・自己評価を行い、教育活動に取り組んできました。

そして開校から5年となる平成30年度に2度目の自己点検・自己評価を実施しました。

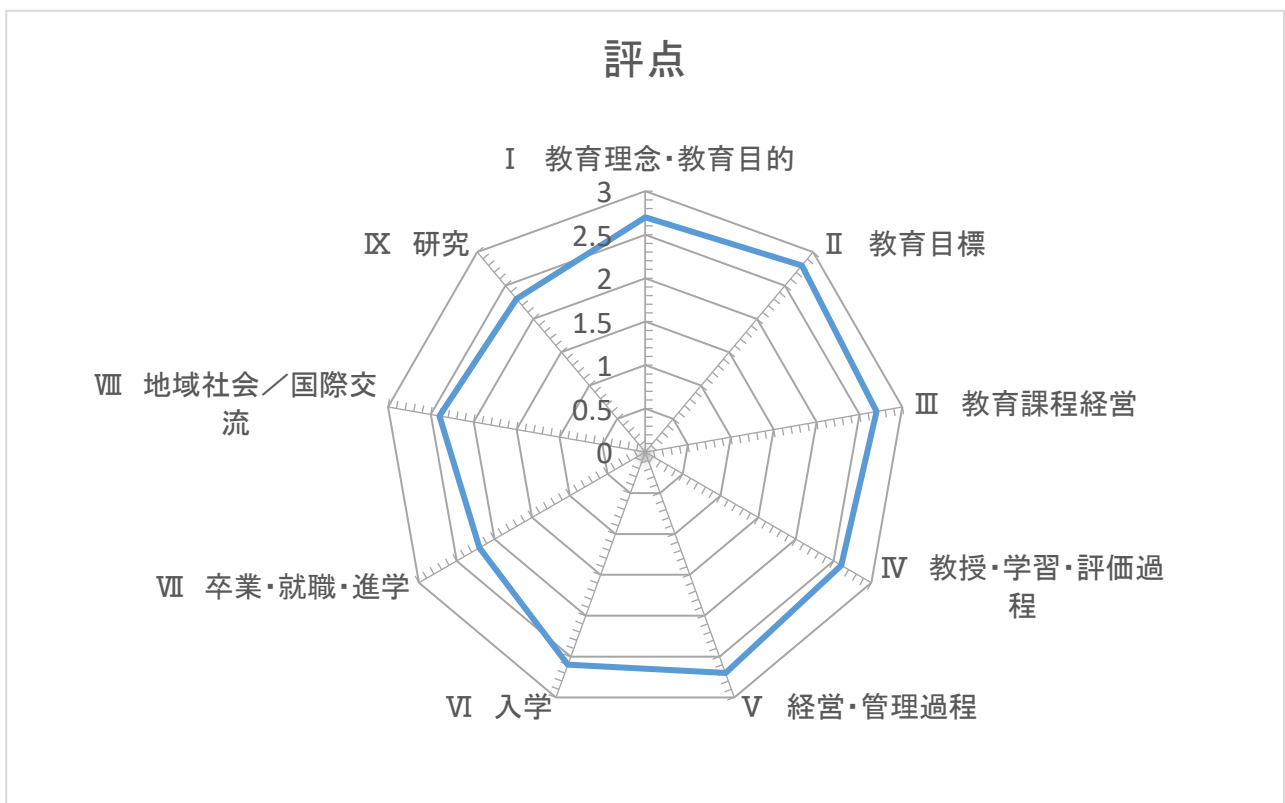
これまで評価結果の公表を行なってきませんでした。本校のさらなる教育活動の向上を目指し取り組んでいくために、平成30年度の自己点検・自己評価結果の概要について公表します。

1. 自己点検・自己評価結果

評価は次のとおり数値化した。

(よく当てはまる:3 大体当てはまる:2 当てはまらない:1)

カテゴリー	評価項目数	評点
I 教育理念・教育目的	11	2.7
II 教育目標	7	2.8
III 教育課程経営	31	2.7
IV 教授・学習・評価過程	17	2.6
V 経営・管理過程	36	2.7
VI 入学	2	2.6
VII 卒業・就職・進学	8	2.2
VIII 地域社会／国際交流	10	2.4
IX 研究	3	2.3



2. 自己点検・自己評価結果の概要

カテゴリー	自己評価
I 教育理念・教育目的	<p>本校の設置目的は御坊保健医療圏内に住む地域住民の健康の担い手として、保健・医療・福祉施設や地域において活躍できる質の高い看護師を育成することである。</p> <p>開校にあたっては、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準、保健師助産師看護師法、看護師等養成所指定規則等の法律を遵守している。</p> <p>また、設置目的から、教育理念、教育目的は教育上の特徴を示している。</p> <p>教育理念、教育目的については、学生便覧に明記し、入学時オリエンテーション、年度初めのガイダンス等で学生に説明し、周知している。</p>
II 教育目標	<p>教育理念、教育目的を達成するための教育目標であり、教育理念、教育目的と一貫性のあるものとなっている。</p> <p>教育目標は目指すゴールであるため、各学年の到達目標を明記し学生の指針となるように提示している。</p>
III 教育課程経営	<p>開校前の準備期において、教育理念、教育目的、教育目標等について理解するため、教員全員で学習する機会を持ち、共通理解を図ってきた</p> <p>しかし、地域医療計画、地域包括ケアシステムの構築、多職種連携等社会が変化中、看護師に求められる役割も拡大して来ている。厚生労働省も平成30年4月から看護基礎教育検討会を立ち上げ、カリキュラムの内容検討を行っている。そのため、今後は、その動向にも目を向け、本校においても開校時からのカリキュラム内容を評価し、開発していく必要がある。</p>
IV 教授・学習・評価過程	<p>開校当時から、学生と教員による授業評価、実習評価を実施し、授業、実習の改善に努めてきた。</p> <p>臨地実習評価においては、ルーブリック評価を用い学生が主体的に学習できるように工夫している。</p> <p>開校から2年間は教員のFD研修として月に1回を講師を招き研究授業を実施してきたが、3年目からは3学年が揃い講義や実習指導で時間的にも余裕がなく実施できていない。今後、学生に効果的な授業、実習指導を行えるように研究授業を実施し、教員同士の協力体制の強化に努めていく必要がある。</p>
V 経営・管理過程	<p>本校の設置目的は、地域の看護師確保であり、地域医療に貢献できる看護師の育成である。</p> <p>卒業生の約70%は実習施設である御坊市、日高地域の病院に就職し活躍している。</p> <p>地域医療計画、地域包括ケアシステムの構築等看護師に求められる役割が拡大される昨今、地域のニーズにこたえる看護師養成が求められている。社会の変化、本校が置かれている立場、役割等を考え、看護師養成所の設置主体、管理者、教職員の考え等の一貫性を図り、目指す方向が明確になるよう情報交換を行っていく必要がある。</p> <p>施設整備、教材教具、図書については、計画的に購入し学習環境、教育環境を整えている。</p>
VI 入学	<p>地域の看護師確保を目的として開設された本校であるが、開校6年目の入学生は、出願者が減少し追募集を実施したが、定員割れの状況である。18歳人口の減少が進む中、看護大学の新設もあり、入学者確保が難しくなってきたように思われる。また、地域の医療機関においても看護師が充足しつつあり、採用人員が減少してきたことも影響していると思われる。今後本校の入試形態、定員数等についても検討していく必要がある。</p>
VII 卒業・就職・進学	<p>開校から5年が経過し、本校を卒業した学生は117名となった。その約70%は地域に就職し、90%は県内に就職している。</p> <p>国家試験の合格率は、1期生、2期生は100%、3期生は1名の不合格者があったが、97.5%の合格率で全国平均よりも高水準であったことから教育水準は維持できていると考える。</p> <p>学生の動向をみると1期生は入学した40名全員が卒業できたが、2期生は2名退学、1名が留年、3期生は1名退学となり、単位未修得となる学生も見られている。1期生より卒業生のホームカミングデイを実施しているが、今後就職先の病院での卒業生の活動状況を把握し、教育活動の評価、改善につなげていく必要がある。</p>
VIII 地域社会／国際交流	<p>開校から5年が経過し、本校が輩出した学生は117名となりその約70%は地域に就職している。このことは最大の地域貢献であると考えられる。</p> <p>毎年地域で開催されている災害医療救護訓練には、被災者役として参加している。また、地域の商工祭、夏祭り等には「まちの保健室」として参加し、ボランティア活動を行っている。</p> <p>また学生たちは、「まちピカ大作戦」と称し、地域の清掃活動も積極的に行っている。</p> <p>学校のホームページでは、随時学内の活動状況、学校行事等を掲載し情報発信に努めている。</p> <p>国際交流については、授業科目に英語、中国語、国際看護の講義を設け、図書室、情報処理室には、インターネットで情報収集することができる環境にある。しかし、国際交流の場は設定できていないため、今後国際的な視野を広げるための教育を考えていく必要がある。</p>
IX 研究	<p>開校2年目の平成27年度より、和歌山県看護教育機関連絡協議会のワーキンググループに参加活動してきた。時間的には出張扱いとし、活動できる環境を提供してきた。</p> <p>教員の研修、学会参加については予算化し、経済的支援は整っている。</p> <p>しかし、講義、実習指導等で時間的余裕がなく、研究活動を保証する体制までは整えられていない。</p>